世間娘親戚録
合本
へ遠13
1916

1.916

序

花を美地豆腐ハ二彩まやゝ母ハ母ハ
て若過とゝろ川ゝ文を湯と書ハ母ハ法と
育ゝも後ゝ姑息ゝ抱ゝ也ゝ人の
未ゝ水ゝ流ゝ也ゝ先祖ゝ業ゝ矣
ゝ鬻ゝ其頑祝仁容紀とあゝ戯言
ゝ頑愚老義ゝ母親
容紀ゝ事ゝ書ゝ

新とあまた紀母にてそらに見ぬ人の御事
拾ひ集めて作り申こゝろ拾てとつゆとあひ作
意ふかきこゝろ千入仲の浦ぐ〳〵なりひ
相もよろしく人々情ふかくこゝろ寄しし

寶暦二壬申年初春

南主梅嶺翁著

梅嶺

世間母親容氣

巻之一

第一　目録

高砂の紅葉ちり新たるお敷安部
男子女分を親ちり抱ひ孫
海ち絵師室箱ひ入る貧安
子ひ人の弁とはなんの母あり

第二　按摩車酒とりけるよし百姓だて
ひさかたりに冷酒を多く酒を大そ
くとりと酒とのりとを酒蒸
さざんで赤さいこをぐ紅梅
第三　母親に仕ぐるる女郎
かこひもの禁酒に春ゆまれ大そ
酒ひ美と御用達諸国
兼香に出ぶ出れ仕様ぬ

第一　高雄に紅葉ふり新てるお敦盛節
人ろ百年寒梅ぐるのりね織ぐ
楽人兼高ふと業とうて。人形酒樽たるに行も面も連
俳もちる友どり。六人さとひあをてたこのくるる雅に紅
葉。ぶりるくいづまの紅ハてりてぐを春にさーりり。
ちるのかりてくに植ぬとこあけ仲百。水もたまりに樽とあけて。
十脇者ぬたるこ酒とをいひてみつめをぬ。山者ぬをたあ
紅ぶ。ぶうぬらて日既よ未ぶいさくぶる雅みのがりに大地
と蜀紅あて織の。ぶ面と綿後もてひしし詠り。渓みけさ
ぬる樽梁水ぬ映もぐるくれちぬたり四ハをーぶ牛滝ハるの
びるり。九をにちるぬしのぐ先。ぶにるんあるくれく水蓮や

いとうけやつくと業どれと家にうじ〜れて生ぜうとこま
とれどあがめ入て顔徳さまりぐ〜ぱ中あと婦丹貴風と
いの方偏医おまり杉の〜絡さに行ごふ〜りを入てんるぜ。
杉のくまだ〜くもたにまもとをのくして唐詩とはどうみ。
唐書あてあろう〜〜ひのがら坂のあるぐ。語源〜う巌ふ
若ありて。油雲を立とうづ。紅家ゑと極藤にまりムう。色より
八極人もくに人絡ぐ〜〜ぐ〜絡て面く幽あるにおやーや
三十四よ〜ふ〜美女。件場の指山と射て照珊瑚の斧概
系に絡さまれ。蓮世風おとぬひの小袖。白淡のあくを抱に打
うさ。蝶川美薫のこがいれうり絡。袖香炉に名香とを〜を。
照種のこ〜絡に水晶の軸〜〜うを巻とうづさ。だんぐ
とねうくなぐ〜ゆ〜こうに四方はを〜絡とあがぱづりみあを〜

ゆく絡より十六七なる女童て風絡に袖やうまうん待
ふにいく〜の酒をとさけ。世づるぬていあてまさくひゆ〜てい
貴風ふもそ〜ふにあり。巫山の神女とふるめうを也ども
絡家の姫ふあ〜ぐ〜ていそ〜うあ活羅婦あ〜んやとれちと
くんも。張文成が友半とつぐゆ〜〜忙行〜て辞ちぐ〜〜。
怪〜〜て題ふ絡ぐ〜〜でもいそでくんと行〜〜。ゆく
神と乗りて。ぱるあるに方あまで。女絡のけれ〜ふにそうめ〜
のふぐやくとつふとぐ〜〜て

とされてそのとあるくんに義ぐ〜〜琴ふ〜りてもあ絡と
うんざくにを絡てさ〜〜出とれ〜〜ふ所ぐ名もふ
れよぐ〜ぐ小おのお色もあぐ〜ろもまで八ゆ〜〜めれのうん〜。
即ぱふ七言律の法と絡〜てぱ〜〜ふ〜れ〜ふ毛木文緑

二年の事まで、そうりぬまだ伊勢ごしに女も多くとれてい
和顔とうそう人月もあまたばさらばとてけうもの貴賤相にかな
されうれみれば、あるさぶらひ、の方に百年ばかりひとり後へ
て家ゐ、ほうこ勝もこつとしれあり。まよもとも百年ゑ
ちごくいたん中ばかりつるぐ、ふりとこ出まだ白いまさ
中ばかりむあてしまでらこさうしまち系れ紫英大中
浪の事秀おどいは連俳のまとんをハく何とてかとさうり
しどとこのやくしむみえんを兵南つましたさみ相の物の
物ざるみ落つきありしひ事とかりぬまばそれが紙安あり
で行が伝安ちるばさもにひばして猿をこい山あ、りの女ふ
よりそうくとばりあり。貴賤とんてあつこりとをむひ人。
ふ風くとまを物さ酒とふうまん上戸ありがくとふう

まだいさくも辞せび和めもいまバ男の付みつまれ波へ海り城
門のうりあて家中どハとばりいひけうておとめしばさるる
ら浪えくあひぬ其のち角と良物しうる物の時のりふ
てはお細てくるのけまバ。それもけまを風山のさくれたその女ふ
あひさりそのらうくくさひだ中絵を紙忠のる孫ありて。
とれたちあもおあさといふ名りの賤の女ありして教くくさ
とんをくれ、みれもさるにても合しうれもの宝のたんみ
を付に物くとそ。えばのくさもうく。一伝ふハ紙のかくれとさ
ひとまくも。物を力になのひべさんあれゆへ。に中ま也男と
まばりあうことたりて。なのまんたりといへばりくさりあを
あくびちいされふちうとうれてふくくれに入ますてあるとび
を。女の武者浪行ありべ。それりハ扇ものうさ風んなど。

矣徳さ面くるもてとちりのるべ。かして貴門の出合ハ
酒宴の席より。おぼゆにうれるくそのもも弁も再うつゝ
して。酒宴にてびこり。酒湯こるをぐ。あに紙の出陸よりうる
程の義のらにて面倉をとゝへも侍へうつて。すの事も一丈よりひ
をに世の習ひ。ぬまもかれれにおくり。ある時貴門の扉
をたくくとめあり。それるるんを扉酒より色をとゝ。おもとりに女
とゝる旅あて。ちと通じ弁とれるつ。の。堀井貴門様ハかるてで
ござるうちに辛ぶなぐ。お新月年のるんざくとゝにんせちさ
酒べ。それと代接あるゝ。ちとゝ弱ゝ。ゝ事ゝのりとゝいつと
るんをだたるらぐりのるいさ。あれ侍り。面をゝ宝弱ぐり
に来るにまびあ。ゝ。ちかるゝ。ゝよやど安ちりハゝ。ゝ。ちる
あるとびりにまにあてゆとりにまるるるべ。ゝとハかりへぶも。

今さゝめくとゝびゝ拝ゝ。ゝんざくとゝれ出。ゝ。ゝんをゝれだ。の侍れ
ぶゝを消とゝちゝ。ゝとなゝじ。その女ニ十ハ六ハ。ゝとびやゝとぶ
とゝちより寄り袋と出。ゝ。ゝ。ゝらんゝひまぐりれゝとゝとゝん海
びもあれ同年。私義十ニ年いでんねけ。ゝりれゝ。ゝ。ゝあれゝん
にゝどゝかゝれ。ゝ面ぐゝにゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ぬるもよさそうにて[illegible]
[illegible]世とりうるに、年寄の腰ハ、醫ちがひとよびて[illegible]
如一ハ年月ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]ひじく。七つ[illegible]
と[illegible]
[illegible]
[illegible]

さんかうあどいへども。とれをりハとの方とゝ義。三星ゆもとゝ三星
ト三星の二つありゆゑを七六星の象とゝ孫。三十六十二星に
いてゝ七ばよれどゆゑんなのりゆゑんもゆゑ。ハ六十二星にて六て
世六世。人百三十五六ゝ百ハ。ばゝ。ばゝ。とゝゆゑ。ばゝのゝ。ゆゑ。
蓋士とゝ人のゝてゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
しゑ百ハてゝさとてゝさゝりゝゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゝゝゝとゝれゆゑゝひゝゝさゝ。耳ゝて。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
横てゝ。ゝ。ゝ。

平胃散の粉末と、紫雪丸祖唐人より重傷の雪丸人参五金
数しそだるに耳鼻のあまことを舌ふ味ひ人参ことんあて礼ふ
氣とちるなど。脇のくらも信へくるべ。実ふりとも
せ〜もろ〜の医書づまと唐人重傷ゆ〜ざるやねろうの人
ぎろ丸て。代ず帝俗医めして。思ひのみ茶礼とるあこぶと川む
ぐ〜療法ゆゆさ大長のあさとつふ色とんとあかてふどふ
ちくも祖ふ。毒ず医者丸てたくうるあとんるより。たいこ未
社沢弟てれちくりれたむより出ひ多く。茶大丸て
のこむまぬ茶やるくぬ。お出と祢ぐるつ。ろとく棚とつて稲の
祢とまるぐ〜。母の茶ありでいとるして妙すとしひるる。
ふくるとるげこぬ。ぐに見ても人ど嫁とんで
あてぐばまのさに亜とくぐひてのんぐぶといをてさりこ

ぬとふけとおいてきげんれつるぬみとそひまぶ茶のえとちぶ
ふて。けるぐさいてうそら石ふ〜で。ぐるつと仕りんれだあやまつて
ぐり石てだのろうおいとそでいい出てのけりらんた
じゃんのうぐで学宿小去されども。いしゃとつて拘つまて学
宿ありてぐ方ふ〜ものあ海ふ〜ふ拘ものまぐ
石小ぐろ力見丸て。今六枚扇ものう身とぬふりれそ〜ぐつ
金でりぐつふみ長の手人小ぐいとぐ。母ぐ人もおぐつふて。
楽〜とーてぐされぐ。し上ふれも仕〜ふ八河とちふねとつ拘ぐ。
清ものり所氣みぬてのうぐまく。妙寸もちふ〜ふくんあそ七ま
海く打ち九ぐ丸て女帝みぐ帝八九人だいこ文六人仲石ちゃ石
のぬすぐ〜ぐ大ぐ七のうぐさ〜ぐ大石のりねより出て仕ふう
に小判一分とぬさらしぐひえらにぬけるゆ〜稲〜おつる

ゆ〻ぶつと紙〻むけぬるとて代〻の福いしるべてはなれハ枝ぶ
でありうれ世ハるとれのひとあらんぶそのまゝ大
和し髪いぶこゝ中へつれ戸にうハさゝゝれらん毋ぬまれくのふ
ゝ母とあけつぎのわゝりし在ふ祖ゝんぶくぶめんもせびぶり
月とくしゝうゝとげ拓よにちゝされうゝ海とりゝいうゝもとゝさ
のてゝ拓ゝ伸ゝ反ハ丹波玄蕃ゝ拓拓の六人あてゝ半い肩の人数
ありしゝぶ汗とてゝ拓ゝてゝ伸ゝ拓ゝ海ゝゝうゝとゝびのゝゝとう
ぶひんでゝれてのゝりゝゝうゝとゝそゝぶてゝうゝ女の身ゝてゝう
ゝうゝあんまけんゝぶゝこゝとゝんゝびゝゝりゝゝ部ゝぶゝさの門ゝ万ゝぶゝゝゝ似ゝ
ゝうゝとゝて万ゝうゝゝぶゝゝゝとゝうゝぶれゝゝて八つゝぶれゝぶゝゝ。
ゝもゝけれゝゝゝのゝうゝゝ母ゝうゝ海ゝとゝゝの肩ゝとゝゝでゝしゝゝ
ゝぶゝうゝ。ゝんゝゝのゝゝ母ゝとゝ八ゝゝゝゝれゝゝゝゝ海ゝ中ゝの海ゝゝ部ゝ

へゝゝとゝれゝぶゝうゝはゝゝれゝゝうゝとゝうゝ。ゝゝ在ゝのゝゝゝ八拓ゝゝさゝ万ゝんま
でゝうゝぶゝうゝゝゝゝけゝぶゝゝゝゝさゝうゝぶゝる海ゝゝゝうゝと以て伯ナ命ゝう
ゝ宮神とつゝゝゝとゝれゝ。伯ナ命ゝ教れ宮ゝとゝゝ八ゝゝゝうゝまゝこれ
行のゝゝゝゝゝにゝゝのゝゝうゝゝとゝんゝゝゝゝゝゝて八伯ナ命ゝうゝ和ゝゝゝ
いゝうゝゝゝゝゝ拓ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]ものにうじが出て[illegible]仕方なく母うんとなるあんまりな[illegible]
[illegible]ものもなく[illegible]車なるべし

第三　母親の仕習ひ女節

[illegible]情の実と[illegible]のとゝぬるとなれ和しうとゝもたゞあるの
[illegible]のんあるとゞじて[illegible]男に寄まゞるひるの
車。落紙だらけにくたまうる場安節にてあるとゝ[illegible]
んざる時あり。ちうハうの時より公界十年とさゞあナ二
[illegible]ひ仕方れ[illegible]の悪ばとうんあひおるさ
より魂えんといふ[illegible]ごといふ[illegible]とあるゝ[illegible]より[illegible]嫂
[illegible]とゝ[illegible]ゞ[illegible]盛みつ[illegible]て発明なるれ[illegible]ありあつゞ
[illegible]人[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

と。親方に毋あやまり。伝このごとくに思ひ。まと。弓くまを。稽古をそだ
いのりし。羽六盃とりよせ。そのあとの。男女ようを。ぜんぜんゆう
ちゃられだ。ちうでハ。ざ〳〵ぬ。出ての。あとにて。一座りと。
とやどゝ。みゝく。ゆつれ〳〵。ゆとよ。じとこ。六のさとつ。ふりの。いろは
いのりてもんゆハ。酒を。せど。イのゞ。出てうに。ゐるゞ。ごさも。みまげて。
らんもとうりゞ。ど。女郎よりも。ぜんもしさいのごとく。がらつて。面
そさい。沈者とバ。ひ。ゆ〳〵。ぬ。まり。酒も。もん。人。ゆ。ゆ。ゆとあだ。ゐる
ゆとゐる。ゆく。ゆあ。ゆも。ゆ。ゆた。ゆ。けとゐ。ゆて。ゆ。ゆこれた。ゆ。ゆ。
ど。大ゆけとゐる。ゆ。ゆ。ゆ。ゆさ。ゆ。ゆ。ゆ

銀子がのこりて居まして家賃こやしにつきさんざたのう
まる。是はなのとり。ねもかちゝ祝ごいとゝ呂ひとのごとく
てもくさくまいとゝ思てかやちゝぶけとゝまでたゞいれ世帯を
うんさくさくうるゝ身あんじ。たてこのごくやとのせこうなことをえん
実にたのあれ。そのれ五万貫ゆとゝめて外代と大事み
あるとくお身ゞゞとろくしけさくゝおとゝひとゝかゝくくなまゝお
んがあるとあるべしゆゞてよれ身をかゝゝかんゞいゝ祝ゝとろこひ
わるに面倒のうまれとりゝゝゝゝ七二分れてまゝあくゝ加てハこ
なひゝとゝふとゝいとゝふとゝのゝけとゝつるゝゞとゝるもあ祝あま
じゞゝゝとゞゞ七二分れおゝげゞゝなゞゝられ老ゝつゝまゝゝ祝祝
あゝてとゞゝとゞゝとゞゝあゝぐゝゝのことゞゞ身にたゝゝゝゝるゝ自あ祝の
ゝあとゝゝふゝんゝゝつゝゝゝゝゝりに七二分ゝゝんのゝゝげんゝとゝりゝゝゝゝゝば。

もまたかゝゝゝゝゝ

はてはじやねとゝんみとゝらまこゝろをうてゝ腹がゆてさいこゝろ
ゝ。義をまづゝ高麗浄るりゝこゝろんやまをまづゝハ嬉毫の色ばこゝろ
く系れかまづゝも古世ゝるゝ。花流の色ゝ。出世やりこれこ
腹あゝこゝこゝんゝにゝこゝゝ。極ふ酒のまばゝて。藤系こゝてこゝ。
羊羹ハ耳こゝてゝまゝいゝゝ。外郎餅と以酒の代りゝ。ゝゝゝ
ゝるゝて浄るりゝこゝりとゝゝ色にゝるゝ。ゝゝこゝん色で八分ゝつゝ
ねゝとゝゝゝるゝ身ゝゝのゝゝゝゝてゝ。こゝゝゝ八百ゝゝゝゝゝゝけゝ
ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

上ふくろのあるもの[illegible]医者おごとす[illegible]
[illegible]家とて[illegible]
てのむとさ[illegible]
[illegible]
ありて間間[illegible]
出ぬさ[illegible]
[illegible]
[illegible]

第二　母親の恩は小さい子成ぞ孫の者
仮名の物語を書かるるご発
石橋の牡丹をしらう色の飛者
親親の美貌に流つる孫を

第三　嫁ぐ志をうふ新風流のあて言
学問に茶道とかの新とかの物語字
一点一畫遠まひのまゝ嫁ぐ花ごん
ちりぬるさ紙の美るさ紙のうら

第一　武勇ゆゝ母とねのごとうる者

奥州の行り物のあにうらうる物とん紙。猿を小人を物れ者
より好ゝ物と呉ゝ軍配の今れ麿とんて八今物れ者ゝ物ひ
と思ゝ世中。太平ゝ化ゆほゝ日海の民情を知ゝ貴八名ゝ
て思ゝ国ゆもてゝらんゝ海八ゝ上げて者ゝ物ゝ金紙の
名土産物あげゝ孫の有法ゝまで身上と仕ゝ事。男紙
のゝ美八者ゝ孫ゝ後の小袖ゝ福力色法ゝ上ゝ。ゝ物れ入
ゝりゝ物ゝ大今と出ゝ行ゝ上ゝ者ゝ物ゝ入れ
法度の水ゝ物ゝ者ゝ物ゝ金ゝ者ゝ事
らゝゝ物ゝ女ゝ国法ゝ他ゝ者ゝ
出ゝ者ゝ二絲ゝ者ゝ法ゝ者ゝ者ゝ者ゝ

和のいとけなき男女共とかくの高貴の生れ
なりにたるさびしき人の家に女と組とをけるバかりにて
なりゆきの和入りなりと思ふ程なく
の娘を人の出娘なりて拾ひ
の面白くなく付けられんとて出入をする陪臣の
仕合せにて世を過す程に
の人をるに女一代子ども副
ほどなくして
なんとうまれ
ハ祝さんとかりけるに
ど〳〵かく。去日良辰と撰び婚礼
其仲のありふる事なり

生涯なり
ひとりなれて所人なり
え祖より一度も見えとなく
うるを見て
和と
あと
ちるをいで所用の大と
させて
ちるなれば
ひとりて母訳
て八の
生涯なり家内はさぞ
ひとりなれて所人なり
祖より一度も見えとなく
うるを見て
和と
あと
ちるをいで所用の大と
させて
ちるなれば
ひとりて母訳
て八の

と所のる法とてつさとそ云でる法ぞ一こあさつして出ぬとと
の事。乃色りに大とけ一しうけう酒とうとて祝ぎりこまば。わく後
金とやいてもあのるが一るハうるはなるぬ〳〵ぶやまれて後とうハ祝
ぎりとのとつふ拍。ふうさえるにやさんとうてゞ出て又ぬ〳〵ひ
ゑ一行間流のあごうとうんぶ一。強氣のあ〳〵ぶ云けとうるあと
いひつるむるぬつさるあぶ〳〵るぬ氣味よ紅るぬにあぶ〳〵ナ二より
いろはとまるびし〳〵ぬであ〳〵ひされ所通反も異義あ〳〵らひあ〳〵
てぶいん切練とうとくらるれたぷくいんで祝ともるげつくべよ
服ざ一よ紅ぶんぬよけてこうれるぷ月ぬハ紅嘲よとて所
迎のりくぶよあ〳〵ひの意あつまりうにつて氣成ぬもゝ出ぬさ
ろくしとの呉祝ぷ月小神ぬ麻よとぷ一りさやぶ一ぬてハあひまら
もくぬとつぷふ紅ぶのつぶに紙まりとうけてぷあとうてて〳〵

いつと毋ちやまもくくこのぶ〳〵やるぶもうとハいひあ〳〵ぷる
るむうを色ぬうぬあるまぶ紅拍ぬもあ一ぷれ戸棚のれれ引ぬ一に。
うぶ身れちりつさぶ一ぬうぶ一ぬ紅ぬ祝義におとひ祝さだ
とあとを色こうりぷんとさこ一ヒをつうハされとぷあうりもヒて
いとうし紙つさぷつぬ拍といふこうこだえいつもぬこく丈ぶ一もさ
すぶハ素所人とつもれぷうれうぬ祝ぬもあ一んとぬ人だつさてり
でりちみけぶさ紅うあ一ふ一ひてゆりうる強氣成金
るぬつルて自紙と又の容氣とうけつさ。拍ぬていれいぬめまん
うく石とハお遠一て拍おとれつうく弱家あうるぬワぶ新法
所ぬもぶつうのるう祝れおふ色ものゆ人つき合もハもひ
くちくく色ぶ一さ而ぬも。九腕ぬてゆうさうれた毋こ云う
色所内の家人紫ゆひぬゆくみもぷれて紅ぶ一と毋のこと

てうさをくしかもそのひろさ遠越絹入撫子の図源と仕こ
くようの八色とさてありけるこの絹ひさごも二人すごく合入
て花瓶造り。色とさいてありく狐ひさごさいて出て八と
ふあつもかくもかくもかりたるひ者ちり素図ーて色乃
ひろ鳥隆義屋なあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ
いひいろ。みつぎうあるあるあるあるあるあるあるあるあ
るあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ
とつく拵の大男ちりあるあるあるあるあるあるあるあるあ
のいさらあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ
ちれ行あいちせるあるあるあるあるあるあるあるあるあ
。大小とさーてあひさるあるあるあるあるあるあるあるあ
のたるひ仕方隆義のあるあるあるあるあるあるあるあるあ

と出り母はいそれるあるあるあるあるあるあるあるあるあ
いるく。酒ちつんあるあるあるあるあるあるあるあるあ
くるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ
むあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるある
し者あるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ
にあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるある
ありつんあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ
らきらあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるある
料理合あるあるあるあるあるあるあるあるあるあるある
ながるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるある
ちるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ
ちるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ
ちるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ
ちるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ

腹とうちうちしいしいとそれこそとうはく
てをらうしやを出ばだちぬ西の
ぢ先知ふ酒ふとはあつそれの
万数の酒ぢうもそのひ酒あつて
ぢうこをあひーあのむしんを
さりのこんあまーとなくハ
ぎんぐら酒ふの男でかあ
しくをでとしつふ酒ちあ
あるんむをを所ハふさふハ
けうこまこすあてつ小利れ
あてハさげらをれ程のをとれ
文ぢひ切て金力をしれしぢ
腹とうちうちしいしいとそれこそとうはく
てをらうしやを出ばだちぬ西の
ぢ先知ふ酒ふとはあつそれの
万数の酒ぢうもそのひ酒あつて
ぢうこをあひーあのむしんを
さりのこんあまーとなくハ
ぎんぐら酒ふの男でかあ
しくをでとしつふ酒ちあ
あるんむをを所ハふさふハ
けうこまこすあてつ小利れ
あてハさげらをれ程のをとれ
文ぢひ切て金力をしれしぢ

んとつゝ[illegible]ひて八月[illegible]
[illegible]ん[illegible]ぶ[illegible]の姫ひめ[illegible]
[illegible]ば[illegible]て今[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]

紙くるとの新巻中れ口巻頭とてぬぐしてうらうら
もくとのうんめうせる〳〵

第二　母親に恋はれし下蔵の稲荷

ゆ〳〵しとゆうとうんまバ雪でハるてたのつでさてやあ
巻の坂家にたらりめ〳〵ぬたのうんぞせ雪ひううけ書巻
い紙をさうけハ巻紙ゆるてめて紅絹よりて紙ひうきま
〳〵亭うこ稲荷彩たつしゆへ〳〵は五条ゆうりあ〳〵び
あうき大福ゆ着ゆ神ぶきうあて巻屋へ袋金紙巻ゆんと
所と家内とんた名あうきまてあるも形〳〵うう内ます稲荷
もおのづ〳〵んゆとく巻やうあ〳〵ぬうけさつうぶしにおし
や巻とこ〳〵にての稲荷内巻あうれうあ〳〵ぬ屋もうんの
んとうう。紙新よ代さあ〳〵くみうぶめうこれとゆても名

ハとゝけまのお術ゆまた巻まのりにいゝあうゝけあゞ
数のゑけおのゝぐ形をハとてだ一巻にあうとゝぐて紅白形と
もけをら巻ねどゆ巻ゆうう美紙とおのうゝい尾ゝ長形さ
ゝうも羅漢ゆ〳〵〳〵巻じて花後家けうりて花ゝ内巻の
林檎を落とあてハたゆ〳〵ぬ巻扇ゆて丈にうゝ孔ゝ一式ひゝん
も結構ゆ巻だあ〳〵ゆて巻も巻ゆけゞて横ゆ巻ゆ扇ゆ孔
家のハゆゝにうゝく巻ゝり稲ねゞゆ〳〵ゝうゝ香をのけ
て巻て巻ハすゞうりあるゆ〳〵ゝうゝうゝれゆ代ねハん巻ゝうう
めゝ医者ゆ坊ゆあ〳〵ぬゆて巻ゆ巻ゆうう巻世にあゝうゝに
あゝとあゝゞゝハまの今日ゝて巻ゝあうゝ巻ゝうゝ
うんゞ二代巻りゆんゞんゝり巻ゝうゝ巻ゝ巻ゝ巻ゝ巻ゝ
内ゝうゝて巻代巻ゆゝんゆゝゝゝ

はすりあらけらを芝居へとりのぼせ〳〵さの出
と脱ひ。夏切てある接衣とう脇ひ西ぜうんわとに
さういとうとられ仲れいろ半さい汁二杯んぐりあて好んを相
んもさへうりちづさえとりあうとでこいりんうけて。
新たつまんをとりし。花村松はとふさて相は女敵のくやべ
そぶさのまれい寄うにてさぐれ〳〵帯り新たつぬのいろひあせ
うに命じまるうあをバかんまあ人をとうんまてハあり
ううて用ばあがれますとたうくとふことだが意れ新
ありさつされつさんまうくごとく新たつ反もるさんの
半ハ〳〵をりまたとりだ〳〵れまうをだつが身とてもいふ
身にあるでいとうだざん。をさうと問。を行すへさぐれとまう
どれじうふさぐれのとまう。けいせいの名中浪家れをよ新ん

ちうんれ行ろれのそぐ行ろうれのハの〳〵新たを命も行
しぐ助そぐそみ仕ろれとハの費月たうる新代ゆいは
物をれけうの〳〵。笑歳門へ物とうをとを意れりはよわど
氣のをいりの〳〵をうを半あの主を石とのみうりぬんとあさうを
りのさんあをだ行がのうまいいもいとれどの行ど主づよるる
女あても。仲妹の兵衛仕いれのうえうんふてをにゆ〳〵れぬとふ
るあの〳〵。れう接ちあうんをのび〳〵れ出あひあをつり浪家ハれ
行がうねと腹妊〳〵。うぐせんとれ母ひまも拾が家れ妊ちまだ。
けがさをてハうぐ。伯母れ。を見序よに腹ありんぐ色ふも知さ
らば浪屋へよびとり。世と〳〵ハ福寺と投寄〳〵。安兵さんべ〳〵
をのかをゆされ意悲もあぐあかは〳〵。紀世れ元さ浪家ハとろ
く伯南をぐらとう〳〵ゆ〳〵。新を命ともし〳〵紀帽あをさを。

ろいさをてでつらをみくるしたに後嗣とうけさをおせてもこれ
ても芝居中しては傳のを稱を母おもいるれ身のいるべきを。
ばかりの安堂しても所門はよりまいりぐどを反はもるべきを。
いよ〳〵れいとはふりをる。彩をハうれゆくにをるべ程。
をのおりりめとかをこを外ぐるを人みをぐれゆく女ぐをく
るをまみ門とかりといをさう女郎とうけ出ぐるの六人をこに
も元家をつをみを妾宅母おもれもうげをてくるハをを視れ
るををを家ゆをもをを。ををぐんハよにゆををうを本ハ。
をぐをうりとハのをのハ。ををうををりみ藝をを
ぐ。所門は婚礼ぐるをひみゆををてハ。をを〳〵ワを元立出てを
孫のをを。厳れて立わぐるもをりふつぐを手ハをめを海も
わりに。をを〳〵彩をを反みもいのをを。をを。

せんとたのをけをれをりをいるをを拙をのをを拙をハを。
をを拙を孫をを母をを拙ゆをれをぐを。ををにを〳〵ぐをよい〳〵よ
いをのををぐを。ををりをはをのを〳〵を孫を上元を。を〳〵を毎
墓をを。ををれにをあを。をををををを。をををを〳〵をを。
〳〵をを母をををを孫ををいをを。をををををを。ををを。
をらんをいれを〳〵をいをを。をを門流れを〳〵をを。
孫を。を孫ハ孫れをを門をを孫を。をを。所中ぐををを。
ぐんを孫ハを。ぐりをいをを。をを。をを。をを。
をれを。を〳〵をを。をを。をををををををを。
腸を。を。をををををを。をを。をを。
をらにをぐを。を。をを。をを。を。
ぐを。を。を。を。を。を。を。を。を。

ものしをもて出て賞てこそ。思ひ面とをてこそに来り〜
所の男人ゆとをて。のとをられ彩色帝ハあつをれげいあ
であらゝゞのと。自慢しをゞゞくをてくをばゞどるをいを
面とかすゞとをこうゞをゞさをてをんれゞゞくをこをて
ゞり色をを。彩色帝ハ面をようけさを思の髪あゝゝ如ある面ゆ
さいらゝ。後の源氏ゆでゆ来るゆもおをりてさあゝ四隣
くゝ。所元のをゝゞをゝゞ。時。柳をれ元ゆををりけ
色をゆをゝ。仏をひ彩ゆ面をり彩色ゆをゞ食ゆををゞ色をゝ
くゝいを。腸をゝゝ。ゞに四ゝゞり。髪ゞを六
をいをひつけをゆあゝれゆ面ゆを。母あゆも松ゆ来をり。をゞ
ゝもゝ手色ゞ。彩をゝもにゆけをゝり。ゝれあゞけりも海
をゆゆゝゝを。一家彩をんゝゆ。ゆゝりあゝゆをて後家

ゞをゝゞ。彩色帝ハゞ彩をゝゝ。あの彩ゆを八を
彩ゆれお後ハんをゆ。をゆゝく動ゆれ思あんをハあゝ海ゞ
ゝ。後家ゆゆも又再ををゝれけをゝゞ。ゞをゝにをゝをゝ中をれ
ゞ。後家ゆも彩ゝくゝゞを。家ゆも行ゝ中。彩味ゝゝゝ。
をゆゆをゝゞゝゞゞゆを。ゝゆゝて彩色帝をゝくゝ
中ををゝ。それゝゝゝてゆゞ家ゆあゝゝゆれに家金
もゆゝくゝゆあゝて。彩色帝もあゝくゝて八一す出ゞゞ。
さゝゞ帝もゆを。彩ゆ色帝ゆゝゝゝゝ。家四をゝゝ
にゝゝをれゞ彩ゞんゞゆゝゝゝゝゝゝ。家四をゝゝ。要にゝをれゞ
彩ゆもゝ八をゝれゝゝれ後家れをいゆゝんゝ

第三　嫁ゝ姑ゝゝゝゝゝゝ

はさぐ海りでくるりぐるりぐるりと回り世をとれば所ありてぱ
がのこれ扇をとりあつ一天八寸のうり袖ぬひ一さいくくとを
ふの門流をもくくと今時こと人ありうれ大うり袖ぬひぐり編
の素ぬひのこあり世界一ねて出てよりのれうりに振舞振舞とい
ひぐうをかもくくひとこの事と同紙流あてをすいせ
ぐれたるけあぐ裏ものぐれひくと血と血であくくうげごと
これお服のうぐ品ものとうりあふ仲の百万遍もすぐうはあ
とあくくうその表紙ものくくにかりひのつぐ一ねぐ
表紙袖の裏うくうを色に伝授を無言ふ上編をこの
表紙書あて仲く家とみ家のの思ひ紙を珠あて れ酒
にくくくたくくを年四おれ人を拙と笑ついでやうにも二ぐうり
うけねじおうを紙の所人りぐだうぐ八懐ぐり女房とひくぐ帰

くりとあくくを流世よりひくんあめあじも巻毋姉紙ぐくくあれおゆ
うとにくみのあのをくに伸ばくくてハやぐて想系もあひたくくぐ。
あ元の思ふすくもあるみ。ぬ西さくあをばくくにくくむくひてのふ
ぐあくーぐんてあくれなものくくぐにのあもくのぐくれむくくを
にくくて大せりのよ仕る紙のあるうい一ゆくらくいく紙で切てをを
らくくあくくを。文やをくくくくてをくぐ張くれくとあくいをを
西村宗国の一句も思ひ出くれる。色ハあくあくらいくをくくあぐ
へのくぐひにくくぐを国へ入てを月のくくくをまあかくくばくく
幸ぬくくたくれくんくをくくくくくくくくれ敷くくあくり十三
巻くくくくくくくくく

あるうざ。そなたに堅地清潔なる紙あるに入
門し。た偽て云し。漢書と儀編し。ひ元の方まへ。そなたに
くりし京ざうつとあめ〜て書翰郵に累旦の詩と云。米
唐紙のうけ紙とて。晋上春詩と表書〜てねとりされ。生
くの方や百姓。ぐに神ぐ。ぐ。おさめ。性ぐ〜ぐ〜ろ。ん。伊のさん
ぬたうろ〜酒ぐし。女房おゆうえまでつんさせぐ。りとあ
まもて〜ろ。ぬて〜ぐ。ぐ。ぐ。

おつくろもそつりとハ抱とはくさびと雨濡うつもふめら
さん使ふやうれぬとのれさうぬ泡てに女の性ハむごりこ色好の
ゆきてもぞふさうすどうしぞて情紙の情の字ハそうし
とよしひ字ふそ恋ぐくくもうぐまとかの女にうたる惜しく
思ふうりうくもうらぞ嫉妬の二字嫉ハ女のうまれ付うら
やましい妬そのんぞのごとくゆうりてぞんもんにやうう
ぎうれうりんもさうりうもせうにぬてうりにもまれかく
んやうつさんうて紙もあてもんとちぐみるもしとうるう。
代〳〵使りてこ十枚とうひうる南系れかうりれ巡とうう
うり。そも考うをゲ外うきあぐるうハこ業親ぐひ
に着やのうしひとうぐだ以痛ぐもうとそ。紙もまひバ。ぐ
の一いやしうさ注弟。菊の費よ紙いうびつうをぬまでとぬう

ふて痛いまてもたうりてうまれぐ番抱ハ抱ぐゆさふづひ恨に参重
ぬゲ系ぬうくぬさりうハうりまて泡て最に河とれさをせんぐ抱
ハうぐどみとれぬてさいうう変紙ハかううにぬうをを紙ぐ用ぬよ
ようぬ泡ようぬりてハもづしうさうへ用くりぬとれ出入ハ濡ぐを
くぬうりうぐよ恋ぐてゆうさてハ抱もお用系ハぐづとうるもうぬ
うぐぬぐれてうくゆうとあうにうるをせ行ぐうさゆ二三年ぬ泡
ぬうゆあげゆりにうれゆ去ぬ七人の子抱ゆうとうひ
うぐげんえての紙ゲ外無着ゆもせいうつうさうそが袋ゆうつうをれ
うるうぐ。ゆうよくゆ用ハのうあうーとくうんうをて行のうとうゆぐよ
のんれゆうゆうにを祇紙への紙ぐて前ーてをゆれー無素文の紙
の表紙大伝古代伝牌ぬゆうひ。をうれもにのまりうゆあうとあーく
思ひーゆうとひうぐー。向後ゆ抱ゆうう抱とうひ大切にううぐーゆうを

つんさきもつるくのやしれにちるこせのくさ。洞とかじてくてどうんと
さしばひとこと。はいとこ。女房れおゆ。ふうこ。こ。ぼ。て勿称ふ。ぶれを
やして。はいこ。中ろ。ハあまり。女房を。とぷいどりなろう。ふ。ま。姫
ト合せ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ハ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ

第二　得生極樂まごぬのなりの
後生の酔てなる酒のよれお袋
尼うなるひさこハ供ればどうみ
一向一人の酒りの牛系れ乳ん也

第三　舞子の老うハ重と寝くしを扇
固偏ちんの部言とすれば女
みびどうなるとも絵の仲人に
親のえらり姫の七えれとて金

第一　継母の恵悲み母と孝と、孝

恵に二君の仕へ。貞女婦の酒。石臼箸にもちを孤ば。
夏魔ひ。月を大の絵。草木ハ地にせ
じてびうも人ものしるのハ。若のれ。ところバう
接稲と分て出をば。ん。を抱之居の孫の山とち。あ。信ふ。の女
角力もおうう。ぬ乳雀行みハ。世界の祭日江戸。酒さう
地ひう。人の三月もけ地ふ。ぬ酒りぐ人乳たのりく。行とーても
後世のう。ぬとうのうのうさに。浅家にく焼鉄ちて。夫婦つぐび
絵の。ん。ん。西新と。食さうの。れ。ぬ。ぬ中。も。う
門牡蛎の味。ん。び。行ちん。家。へ。ハ。ぐ。ひ。ま。に。
ひ。ま。ん。ま。ま。ま。ん。と。大。ま。と。後世。う。大の。ま。の

低ちとしよハ子低ちゆ三十年いぜん大和河の宮ゆ流れよ
方のゆ出たるて此ざい領内ゆ流れ出て江戸浦ゆ流れ
あひ。私人とゞめ抜八人ゆ出たるて大
坂まで流ることせんぎしてゆ稲もいづゝ私ハ七兆
ゆ流れ出たる。私ゆ流れ出たるゆ文化元年六十八ま
てゆこの三十年ゆ流れ出たるゆ
もんふ流をぬたゆさまゆ一つはゞ非人せんどうにゆどしこ十
年ゆむゝ流れ出たるゆ流れ出たるゆ
ゆくゆ十ゆいぜんゆ出たるゆ
ゆぬゞひあゝ流にゆゞ流れ出たるゆ
ゆるひゆ子低ちゆハちゆ
ゆゞ私て。私人切ゆ
へゆつけゆゆゆゆゆて百日ゆりゆて一の流ゆ出たるゆ
ゆ流れ出たるゆ流れ出たるゆ
流ゆゆ私ゆゆゆ
ゆびゆるひゆゆゆゆゆ
私ゆゆゆゆゆ
ゆびゆゆゆゆ大ゆ。私ハ流に低て長八ゆゆゆ
私ゆ流ゆゆゆゆゆ
日ゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆ国ゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆ
て島ゆ化ゆ流ゆ萬ゆ化ゆ
ゆる流ゆ私ゆゆゆ

めぐりあふくさのことだとくづりおりくどるくちびるの色ふかき
海苔とは名のみとんてうゆくよりはなしとぞ伝てゆかんぢ天
王寺悲第一ふ海苔ハ海苔を吹ものなられてしまこそうるの
とりとゆくびはなし海ぞ西北みあるりてさう浜
つるく海とはなたるみつりてふ七百里ゆくく永ふてを
かるるゆあるとうぢ大きるの抓めたくるとるとひんでり
つんでなるるるくくさられちをんく
とりふるるく永ふてハくをれぬといふふまりぞひるい
ざるとれもるるに金門ふ楼みやびゆるみーて大ふ日ふんとふを
にるふまて安福ふうるぐーとにるたんるにつまれて
六ふるとにちるたとゆんるふんるわぶるーとても死ぬるるるーハ宝
業ふるりるけけふまてれてゆふれてふるこの新ひとれもさること

ありと伝ふとゆるされーに伝ふるーんとうたんたん忘ーーるに
中途ふてるるだとれまて新宝金ふるーばれセしるるーつるみ
ふるふ流ふとふるるるーとーいハ海ふ新ふる字ハ伝ふ壁稀といふ
とふるーふるれーにふのふふるるにものーにのどのふにふるるる義
ふり天ふ三年九ふるるるるるとひふるに三ふるるーふるセもふ
のどるるるくふるとるるるるるーづるれるーてふのふるのま
ふるべーーふるい三年のふ入ふハーるるるるるふ飢ふるのふ伝ふる海ふセふの
ふるるるる伝ふるふるーつるるる廛ふるーあるるに海ふるるるるるるるるるるるるるる
ふるるーるるるるるるるるるるるるる

の後ものみけあるべしこれをていめてちうりゆずりてねがひとをあ
あけ。縄ゐのあしてかうもどこ流れ出てぜんうこへ入水とうひ奥
とうこをぜ流ぎまうして立海るにちはうこうげみ河とおがをどおれにを
るんうのをこばちうこうるのうみれ居とうてうりうあ家へらうんれむ。
紀伊名大福ふちうこれるがこりうまれいうこてゆりしとうちうこびれ
流とまて。をといふも菊化こうん高れのたりげこうーおうこりうが
ふれ悪とうこうりうこびうこうこうしをこはちうこびをべていうこさ
るあとうをものにをるはこりうこびをねれよ解こよ紀行西紀
あうーばりしれ西こるうちゆうたりとうくだゆひもうーこび私は
うこびりうこうこうーばりう大流ますでれうこ紀ありしに流これるく
けをるとうこうくこうるうが。天のあうふる貧宝ちうこうーしと梅文後
づをの妻にちうれにあり巳にちうこうーうはうこうりうく。

伊ーあーんえのいりの女房徳毋ぐうーんうこれげえもいりんとうんを相仕
とうこうーひがらんをくーこのどうちうくーうとうこうあうこをえ井はあもも
けあうちうにたうるこばをてうこをあづうしこれをうゆ後のごとうこうこ
ちうくふ沼ありしふ文化をつかこーけつりうにをこうひあうひかもも
つをつふしるうくーあなこれりうけいがこうあくーにくうげをこ貧
えことまりうてんにをこうがなこうこうがはをこいうりてうあにあうう。
食うりうこもんうーはをこだれ亥のトんあうれゆーけいがうーうる
くーうれ元ちへゆうこうてかうこうこうをの衣にうをこうくーてものあく
まうこれふ義こうんあうくーこだ夫の後世こうーうひだくーこうあれこ
祈こうあうくこうこうれた。りうゆ化をうーは要名をたくんこんれあ
くれこあうこたまくーあうらくーこうる嵐いうの布ふも化をうこうひこと
うは賜りくーこのいりうはれも妄法これ呂ひうるうこうこ

かるけいばうとぶハ海とにまれるり。他そくハ總身飽ぢかのるとゝ
ひごくつうひて故へも大坂へもゝ〳〵をてのゞり〳〵ゞ大熊のもづく
み海けてゞるハ人のねとるりゝの身ハるのこぶまひとゝてゝろ
ひゝ紙りをて出とのひるゝ一家ゝ二三斗ゞ。をとはうみてひる
〳〵かゝるとゝ母ハるるに出ゝ出ゝ出ゝ

所と思つても、看板さへ、ぶんぶんと樹のあとばかりにて、
のこりすくなくなりたるゆへ、沈田侍丹治池大藤よりつゝでに酒樽を、
大切に、ゑらび、若さを、板のかくらぬうまを、第一にして、さて酒をれば
強よりおハ、そこ〳〵もんとをとゝのれこと方面とよばゝ、分稱な
き、もゝ、ぢぢ、ぢぢ、合を眼とうくるを、ハ、大乃は、冥加ものつきて、指より
ひろ、ゆたもとうぶん、半、酒のめるうるゝ、ゝ、ゝ、山、の、ゆ、へ、かれ、派
俗とあつて、酒をあ〳〵に、ゝ、ゝ、つ、ひ、ゝ、ゝ、ゝ、れ、ゝ、て、次、才に
若ゝ、酒、ゝ、家、内、ゝ、ゝ、ゝ

けうりょうのかぜにたなびくなでしこ
はるらんぱとろくこんぱのもゆるしゃ。後家ごころ世をとぐら
つもぎぬ柳も色ぬるるにてうぐいすはむすこ義
ぎかるるもの世ぬ拍子ぬ拍子ひろまぶつ芝居ひも
あにしてうりしゃ。さいはせたのしみ。さい
ゆきぬ仕ひるとして仕せ。思ひ。どうやらうぬ拍子ぬ
ぐ拍子ぬけのうぐいすとぬとりつぬてあるくト女小
のこうぬぬぬぬぬとうこつけ肉と出て笠屋ゆきぬ拍子
金とうのこ一向一ぬ拍ひくさるぐこそそれぬりるぬ
ぬ命伊丹酒屋のあるぬけぬ遠藤の肉芝居ぬ浅
ぬいるもいぬれぬ肉ぬしてぬるぬぬしひ柳の横笛とぬ
ぬぬ二百ぬぐさあて毋の妙柳ぬぬ立役ぬとしひそのか

たいこ持ぬ拍ぬうぬ京ぬりぬ酒ぬりぬてうぬあるりぬ肉ぬうぬ拍
情。ぬぬ命大きに肝とつぶぬうぬ拍生ぬ拍ぬるぬりの
ぬぬうぬぬりぬ京ぬぬうぬとぬりひぬぬ。あのてぬうぬぬ拍く
ぬぬ拍ぬるぬぬりぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
引とうひ。拍ぬぬのぬ拍ぬ肉ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬ拍ぬいぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬうぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬ拍ぬぬ拍ぬ拍ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
のぬぬぬとぬぬうぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬうぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
芝居のかぬうぬぬかぬぬぬ拍ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
芝ばぬぬぬうぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ちりぢりとなりて出てゆくるとぞんじてつゝ
ぬをこゝにんとつゝ
ぬをこゝにんとつゝ
ぬをこゝにんと

あしはびむりをせて、さまの膝と枕あしらひたのしみ給ふ
をりふし、女房まうもをあるに、ひとつ〳〵みもちらくわう
ぐつ、おさまりさうに、義とあつまりて、ちかくとめあて
はべる。尾張殿、おもひうしろ、浪人のまやとゝ仲さびしうなりぬ。
の油ひとつ、ある社人、石類ハよりけ、仕へ、ゆづり、其腹のこてゝ、月み
金さきの肉みやまうらうしやでゝ、高麗ものゝ、ふかれたる
へみおとろへて、姫とは、ひとしてゝ、せうもたのう、人肩うふうふ
色てゝうちやうりうて、髪めてゝうしぶけたるつまね姫ゆく
姫女ハ、れんらく、お妾ちゝみハうくのみまでゝとゝとりわや
しゝたのむとあと、女姫ハうつくしみ、みてゝ、年さゝんあて
世ハ出〳〵、ふとうのしはそもあり、ハ行とかく女ましれ
付うあたゝ〳〵、とこむ〳〵、ゝ女も田舎の柳ごゝうハたと

やうにつゝみ、も解の男人ゝうありれうう。橋本所
る者ちお妾ある、ゝて、所西〳〵れちと、俗〳〵。田舎ものゝ
へ小のゝ〳〵、武士ゝ〳〵、ゝびう月ゝ人ゝとゝうに、お袋ゝ男人
の色と、ゝうしのれみ付て、森れあきれみ。ゝとくゝうゝつき
ゝ月ゝ、ゝ月ゝのひとゝ、ゝ物みゝ出〳〵、ゝくゝりつきれゝ、ゝ〳〵ひ
もゝうゝれゝ〳〵。姫女ハ、ゝうもたゝ〳〵ゝ、それゝゝうゝ
一度ハ、ゝ人ゝ、ゝて、ゝゝとゝて、今ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ
ゝいゝれ月ゝうゝて、ゝ〳〵ひゝも、美雲れ、ゝ気ゝて、ゝ。
つり油ゝこゝて、ゝつゝのゝうゝ、ゝとゝ〳〵ゝ、ゝ武歌み
れ、ゝめゝ〳〵、遇ゝ〳〵れ、年だゝうゝハ、ゝとゝうゝて、ゝの釈もれ
ゝ、ゝれ、ゝ〳〵ゝ、ゝ、ゝ力ゝ〳〵、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。

家老流すてにんとうれがごうのとそそ紙二百八十文下され
みハとのもう京にてをぐるに拝わたされて縁にのり物うごけ〳〵せ
づうんに法本枝はよのとうれぐるとあうう勇ものさ〳〵ば
と見とをぐまて安ふみて〳〵にもつりぬとのうく杖ぬにたうう
し時ハさあうくとい上日ハ無ぐてろハ僧ろ〳〵ちらをぬ
ちう〳〵和ぬ〳〵ぐんとは第とりにひさおにりてあうしれ
かごにりをせてゆ〳〵和ハ〳〵ぬ〳〵ぬぐんとのうぐぶんも百ぐを本
とハさりとは。ろ金をうんう〳〵ものをだてそさもいりくうり
ゆ人七人て門てゆぬ〳〵づをうさハまうぐうをくうりぐさ〳〵
ニ文もは文もゆうれバうんを〳〵もをぬあ御のでうぬ河
は池入用うれうんとうれたたとうくしひくさ拾さうにあ〳〵ぬ
老もゆ文文無ゆのとうくうハまづハうんあうくにちうんぐどう

さの紙どあおい紙ろうどゆぬひ入てるふうとびひうされ
そ江戸の名物麹まちはうう〳〵めりに盃の軒ちつとい多ろ傷
右あり。芳京にを廣とうれ目ぬ〳〵ハ貴町ってハ巾ぐをさ。視
軸言御の男ろとつ〳〵〳〵。和ハ源川あ石れたとおにあるあり て。
げんのうとはて石とうう芳とゆワぐとれかうれ分りもひう
るれだワ〳〵〳〵。もうぐらしあうくに柳橋おそう
しにちうれ私のぐれつくとうんて。不義ゆうて家うう美ハうう
ろうをのぐう〳〵ゆの人号てお傷あくさあひ寄らうさ船の
あやうさに紙ろりとゆうけ麹町ってさ後の半にも中美の
屋とにうさ。金とうつるうひ脱とゆくて塔うび
にわひて法う西へとあうりうをめてうるをたく方りれお
せもにてゆ十三ふあうせうう安中。金を接あつめておうるづを

とのおたのこゝのとよびのみおんハかゝるに軒端つも合ふ
のどゝハかゝれたとゝつゝさだらんの用いうで考ひさうとおも
後ゆりてよびむ〳〵にさうあ〳〵ハたゞせゞらみてひ〳〵
のた作繰あ〳〵てハ美人さ〳〵かゝ見せ〳〵ゝかうさゝつちを
ゝ教ゝとくゝれゞもゝ七八ゝて新らちとゝりひ〳〵薗とゝて
様ゝおこう〳〵つ稱ゝ〳〵てハくゝ〳〵わたゝ〳〵げゝろゞんとほこも
あてゝゝろめさ稱ゝりゝゝ〳〵てハ海の新ゝたゝ〳〵とゝゝ〳〵能也
ゝゝいゝゝろゞゞくゝゝゝとゝてゝこれゞゝゝひゝゝ〳〵せいのゞゝ〳〵
ゝゝゝゝ。紅ゞゝの憂のゝゝくゝゝ。紅ゞゝを川ゝゝゝれゝんゝゝを。琴ハ三
曲ゝ〳〵ゝゝゝゝゝひの八曲ゝて〳〵ゝゝゝゝゝゝゝの狩。紅ゝゝ
新て伝ゝゝ。ゝゝに出〳〵ゝゝゝゝゝゝゝ

うく。米ゝ酒と云て。吸物みゝづくの酒もゆゝしかりつ
るもうまく酒に酔がまりかゝりかゝあ方のあいさつとて。
出さいけいのこゝ年又八家業とりとまぢぬもとゝいふもて
わがゝろく謙敬いうもく名ゞせゞまゝ俗りゝ友なまで。
ちで交論徒学而のろんとゞせうだり謙ゝなのくも五
永のうゝ祝に祝ひまもうと男ゝ養れよもゝ学でゝはにられ
とゝゝゝゝ亦ようこゞゝうゝゝゝゝ牧山義八と説時母八さゝゝ出
まうゝもまゝ八まけぬ義あり。新七ゝ女のゝうまゝ八義と
仕ゝこゞくゝ仕人ゝちゞゝゝあゝ八と毎せませねに男のゝゝゝん
孫人ゝまゝまゝるゞゝゝゝゝ

世間母親容氣

巻之四

目録

第一 母うゝのうまれし湯屋れしこ屋

老力ばさら一生を[illegible]智恵

志ゝゆさこて[illegible]ハ[illegible]ゆ[illegible]話

[illegible]ひハ[illegible]腰れもざを

第二　雲の出やうに紅裏
毋親よりも紅梅の色
をうつして紅いろと見せ
たる風情本絵のかさせん

第三　意のうち
習ふ髪はたゝ髪
洗みて顔容ふ七高絞
庵めいる男にとうと色画の賛
面ゆてはいる妹のいる別

第四　母うゝのうしろ姿
も番所みとしの日とる
極のうしみと紅葉小袖
土拍のむかご毒ゝ
うんぐ。まつ色に白
美作もとの家れ
ゝとみまづ〳〵れとえん
世を人ざていおごろ〳〵
の骨柳を組るより
ん人すこにちれと
刀の紋。糸ゆて

らやけみるこのくぢらはいかほどとこれ程の大くぢらはいかほどとこれ程の大くぢらはいかほどとこれ程の大く

を貴百目あまりとられぬ又ゑびのいろりあの金天秤も
八貫匁で八百目にうけ取 織物ひろめより変改ありてもいづれも
大店へ売りて也 雲のかたち物ばかりの海ようあり 諸
といへたまにうつてきぬぐの物入世百姓母のんなかくのごとしさわ
ゑ八絞油しぼ分れよりいかあ〳〵付り目録とぐさつて
竜月ちゝべ〳〵とうをばかたち鯛ろとぐ〳〵のまれ物
こうとのれにを抱八扱金号ゆさくうべてくい組ちうどし
とのりこれつぐのそこも也八あまりたかある仕方とハ知ひ
おぐ〳〵ぐこびいもてうんせけもバ母親ゑとうもハあるどりぐ母
しれうのこれいこ〳〵す物ゑ物ふ〳〵てもれ世枚ゑとりものみまれ
一ゑ鯛物とれと西へのれ物もこのぐつるもぐ〳〵て仕ひ
とを姫とやゝぬ物ゑ〳〵てびうれとりつぐだ方たつをうらいまんとよ

せ西陣とりひゝ京の海やとあをバけうあひもびてにあるぐさ
こゑひ〳〵にぐ〳〵こうりたのこれいを物とうなく生ありうくひて
しうんへうり極藍とれとゆてこのぐ〳〵にこひ〳〵ゑのれうをんん
とうこて姫ぐのうり〳〵れあもうゝ〳〵ぐとうゝ母れををこと
ううてれんをぐ。ゆうをきうんぐ〳〵れ西ゆりてゑぐをとうりて
りづ〳〵ぐこう〳〵ばれうてい〳〵ゆうりすまいえうこけいうこうをぐ。
んをこのゆりもうんをよゆうまいい。ゑんゆうんハもうゆ。ゆもり
もうゝ〳〵にうをほぐ。ぐうゝ〳〵ひうりてうゝてゆうこ。西世深の
ゑ。ゑれも。うんをれゆをとうんをぐに西ぐゝ〳〵にてれもんうゝ。
ゆうこばうりれるでハあうまいい。ぐひいも後とうまゝ〳〵ゆうゝ
ばうゝハむこゑもあひまうすまいと。紙と新みゆゝ〳〵てのゆ
いぐやうりゑ。ゑたつもうぐこうこてぐうんいうけびばううまいと。

おなじのわいろ〳〵てのこれをもとめてこれを
出〳〵とうくちいろ〳〵とこまか〳〵じこのごんあるべきとうれいづらし
ちいつことひとりぞ事とうりぞうくとも国にせ八ぬもあるこがあくかく付
さきとあれわるあるあるうあるあるある

下されてあるべきものとおもふ。
[illegible]
くくいひつゝ。
くくもり。母はまにくくしほるゝ。
とあつくなる。一世一代町人の姿なりとて。
姿みとそまりの刀まで。
あれど。
変方一生。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

せてぐぢをりのことにはんとぢかどつてるのんりしてうーどくもも
もうにいてーこのせてこのまりぬと寄もものあまりにとれハい
やもハもうぬとこすにはみすでさても縁をもとあやまり後ハ
家家に嫁してゐ代ぬとぐさにおいしーこのん

第二　水雲の出かたりて浦まとに裏

来出るなる人ハ紅る丹波とにはの美く丹波はとるり
丹後りのハもくゆーとに女々湖のんもりとてぐづぐち
なり紅るものハ湯もむしりりく物とんんて姫まとちに丹波
のものりくりくたくるもとバ酒春重子美くて。
酒の春もされどぐ庄物しーん人ハとく伊勢出とをとてぐろ
ちの湖よりわとハいをせをを月紙と春くんちのいくをを
ゆんすだうりめりて仕換もくのりたりけてひどれのの

みぐひとりぐろりたてるハいづもつきまぜにうゆを出るりの
ふそぐのまぬかろすを六ふぬてもぐんーろぐるりハ紙ーす
きくあく弟ゆんとるるる月にすぐろりても脇ハそひどぐり
ぐんみどんもなくぐそうー氣があれだたーあこ出ーて男ーを
めりりるぼ書所ぬもにんもひとい猫ゆるハをうーもりれ
てを猫書にぐきといをぐにりひどをやけをバ紙とれとーてを
どうをやぐーぬどよりけをバ紙とのはりとハはぐーーたりろ
もかりもぐんみをんをつをみどひにるくれ流義ありそを
んのをるん関みぐてくありーをまげ洗りをぐーどるあり。
えてたりー物と祢どりろてどりつりをりりりりりりりさ
ぬのりりりりとりりよハりるりりりりりりり

ぎりハぬめれ帯とあり。ロせこぬのゆりにぞ紙ぞとのぞさ
つ紙ぞうハぬくせられ。さ紙みけゆめ〳〵ぬるして。境目
しくハ。衛宣を見てくぎ〳〵髪のたくぎもいのうくさ公英人
と嫌び。異ハ毛ぞ〳〵けを。よくこいうりてうるにてうをあひにを
むるかを色を。耳までハこられど。中とぐ〳〵紙をこのけにたれ
ろへをありつけ。ろぞいと伺ぐ左ぞぐ〳〵。松をう乗んぞをろ
に。湯とぞぐ〳〵。ぞどろ〳〵ぐ手とばるの。のとをいと移バせんと。
ぞ〳〵ぬぞうちぐをるさハ松をへ。ゆめめ〳〵をさでもしてぬを
ろうとをこれ。うをぞ〳〵のうう乗中ぞんろぐ〳〵れみうび
たる布。ぞ乗をろゆ〳〵ぐ見をれゆおさん夜にあををせてりられゆをを
ちひ出〳〵。ぞのくを〳〵ゆいてゆるを。ゆ巴バ生ぞ〳〵ぬ。ぞ二潜ぐ〳〵墮ぐれ
ゆ〳〵ぬけまり七月ぐまゆ。ぞ。ぞ〳〵中夜ハあるまいをそ。ぞんを

ぐ乗れおゆ〳〵ゆ松へをりゆ〳〵ひにのゆ〳〵れまり〳〵をゆ乗ちろ
ろうををれてりられゆをいをうへで。肉乗もゆをてんゆうぬぞ〳〵ぞを
ろの釈をろ見乗鳥ぞさいく。ぞをろ田をぞ〳〵ろをを
ぐゆぞ。ろぞぐ〳〵ゆのゆ〳〵ぞぐ。ぞゆ仕をゆぐをぞ。ぞ〳〵
ぞ〳〵ぞ。ぞををぞ。ぞぐけを七ををいろれゆををぞ。ぞ乗ぞ。ぞ乗ぞ
をゆ〳〵ぞ〳〵ぞりぐ。樓所のゆ〳〵ぞぞ。ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ。
ろふ八文字をにぞ〳〵ぞをををてゆけバゆのゆ〳〵ぞれのゆ〳〵ををんぞ。
仕乗れ男のひぞ〳〵ぞれぐ。掘ハよい。女房ぞ〳〵ぞを。ぞ〳〵ぞ〳〵ぞふ
ゆをろ希ぞ胡臭ぞ〳〵ぞ。ぞ。ぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ。
んぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ。

まいりして、はいるもうとも、ぜんの中、ぜんまでさうり、ぬぎ
やれ、ぞうり、ぞうり、花ハこれでござる、とぼそうぶくろ、ぶくろ、まつてゐるま
ちやのおさんにあひさうなおさんら、母おもでござりま
ゝ、ちやこうひこあだが、ぶがうよびいまぶ、おこそうこ、今ゝ、ま
ましゝ、ぶらと、ぶまうぶつりませう、ねにぬひでもごさんせこいんだ
はまもださりまして、てるまんこゝも、ゆりまいりぶ、ぶやハう
まうまぶつまこ、海ちるまでみハハぶ、ゆいこれまいりかせこぶ、ぶう
されぶ、ちまてわゝぶ、ぶらまうとゝびみ、ゆいてゆられませいといふ
時。蓋ゆ、海ゆうひ、ぶ、ぶ十ハ、みあるれゆらちまうこぶ、ぶゝとは
がてんゆうひ、ぶ、ぶうゝハかゝゝひ、ぶうゝ、ぶてゆゝぬけこと
ゐて。ぶ、ぶうゝとりゝあたのぶりゝてゆひみ、ゆりぶ、ぶう
ゆて、ぶ、ぶハ、ぶまゆゝこゝふ、ぶゝ、ぶ、ぶゝぬけこゝふ、ぶ

おこハ、ぶまんゝ、ぶうゝとりゝとゝふこゝふ、ぶゝ、ぶ、ぶ、ぶこゝ、ぶ、ぶれん
ぶまゝ、ぶまうゝ、ぶうゝこみ、ぶ、ぶうゝ、ぶれゆんゆゝとゝんゝ、ぶゆゝぬゝとんゝ、ぶ
ゝ、ぶれゝ、ぶゝ、ぶまゝ、ぶのゝ、ぶゝ、ぶうゝハゝぶゝ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ女
の出ゆひゝ、ぶゝ、ぶゝぬゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶれ
母ゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶゝ、ぶ

いつてあんをにゆりあうしぶるとるゑもいるまいまつてゐるう
ゐれといふるゝ亦ぢさんハ行のんぐるうゆり。母とてぶつゝ
を示ぶるりれおう角ようのぶゝ考んゝるのうこ用まぜもれを。
母ハぐてん母ゐすをのれく角ねぐおさんハまゝうぬけてすどるを作ゝ
まるうぶゝそのうりにのぶりつめて眼ぶワるゐつるゝ。ぶを五の母と
てぶりれおう角とハゐびんのをゆゝを考にぐさてゝ白もあん
一うんお四ゐゝとて小豆を絞いるゆもちゝぬぐ絞まいり。四令を
ゐ寿少朱南を三方四ぐゝはおゝゝ

第三　武乃ゆ和ゝは白髪れお袋

梅檀ゝ二葉より芳だゝく。頻伽鳥ハぐまゐれ肉より。ゝを色あ
ゐとゝ之を生賀に長用ふ墨用ありて菊れ半一撥ゝをゝひゐゐ
ゝ新ふれ色に年月とゐりゆゆのゝ行。まにゝをれ撥さ

れハ切をゝも名ハすゝれお雪ゝゝ娘おれゝいゐゝとゝぶてあ
げ。ゝ年十七の花ざゝう。れぶ打ゐのゐゝゐ白れの鞠ゝゐを
ど人ゐ根の此伝ゝゝうのさぶを。れを墨用みゝてぢいゝれけゝう。絞ゝを好
み。墨れまゝいゐゐゝ人の。巣ゝゐみゝゐ。始ゝゐゝにゝゐぶひ。ゐゝれ
庵画のゝをゝゐりぬ。ゝれ行ゝにゐゝう。ゑゝて作ゝ。安めゝてハお金
棉りのゝ。ゝゝてゝを年ぬぶゝれ娘ゐあゝりぶゐゝ娘ハ。
日ゝにゝゐりゝにゐるはじゝ。自慢ゐるもゝゝゐゐゐゐ。柳れおれの
昨晩ゝ絶ゝ。ゐゐる。ゐ年ゝいゐゐるは。ゑ長大ゐゝ。ゐれゝれゝゝて。
文ゝゝれ軍鶴信ゝゝひ母ゐ絞ゝ浦君ゝて。ゐある庵人のゐ
ゐりゝ。ゝ。ゝ巣ゐ敵ゐゐゐ。軟雑ゝゝて粧ひ石ゐゐゝゝ。
ゝ拍ゐゝはゐゝゝて。ぶゝゝゝ。ゝれ肉ゐ。ゝ傳の九ゝゐゝ。ゝ
けゝゝゝの此庵ゐの商ひゝゝゝゝゐ。ゐれゐゐ実物

酒之通
おのくきんの
かすろろ
えんにうろ〜
ちらして
まきうり
えんがくんハ
ぐそんが
ゆうめ
大きなまるうろ
ぐら
あとハれくに
ちまうを
かすれ
ぐそうと
すきみきと
しそかの
ハ
ぐそで
すん
何じゃ

にてあるを見るにしたがひ
ものみな筆をとれば一ぢやもの
ぢ繁こと
ぢ
ぢ
ぢ

世と侘しいに世に稀なる程の美人なり。もし
いつもお作通りの御新造なら、何と有難
らんとは、世平なるべし。されども、
新平太郎は世の中に、和泉屋の御新造
おれば、後ろ指さしたる。
とかなるべしとうわかるべし。
ぐらの金山は、とかく功名
恩愛と教むとかるべし。
とのの主人ひろしに新造男にいとうるべし。
るまでそゆく始末あるべし。
ちろもの男とも八金山は新平太郎へ
まいりしゆるさが義門の流れ
れるとの侍ぶれとあ格よとあ
せとの田舎のものゆゆ
あてといろとさあぐ
もとあとを掛くおまんの新平
れんはとうあるは
ぶりひとつむとりれとあるぶ
とこがいるあばた
てやろといろれそあとのやく
おのどみ世れ八がしら
と変者をせが平も其のちは
ひとめはあるひお供ひとあ
ひるまりくる

旧之書終

世間母親容氣

巻之五

目録

第一　蚤より出し学問と戸
繼業の命もあぶなきめ
又外より変とさわりめ
神の幸特ハおそろしき大益

第二　三人娘のいのぐみ〜母のおろる
色〜ろ〜ゑれけ腰ハ元祖の世ハいひ也
きく〜耳ひろ相場ハ茶けつぐ〜ゑ元
ゑ〜ひけ敷〜ようこ〜ろ〜ゑ平

第三　おひ〜ふ〜ハ生ま茶合ゑ祖
さひけ母け夏世ハ〜ひ平樟元
沖漕〜色帯〜ま合茶版
牧ま小敷〜ハ匿〜海流

第一　面ようのぐ〜ゑ〜ゑ〜ゑ

をしけ事をする時は柳ごをにしてわくらの事をするものあるゞも
候へ今をとう。さうれば遠慮をしてこゞだをうとうこゞ酒。をとうこゞ
をれしれをひよりてもいをべをのをとをの女師ともをうをうをうをうをうをう
をををを

十一歳にはなれば父おとゝ母のかゝりて十四歳までは
てゝらしゝを
京のうるべんりとかく家世絵師とゝ連ゞ師のりゝへをまなびに出
まれ付て山水ゆるゝと絵と画るゝと始こゝ書入絵とゝうゝるゝひとだゝゝ
るゝいとゝ上手ゝ中ゝ下もんゝけつゝ世れゝゝ人絵師もゝどくゝゝ
ゝゝるゝひ物ゝゝみゝゝゝゝゝたのゝゝ絵ゝゝゝある画ゝゝゝ行ゝゝ
ゝくゝゝゝの世ゝゝゝゝゝゝゝゝ入てゝゝゝゝゝゝゝゝ別ゝゝて
源氏絵と画ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

このぞくぐつのゆくいさくうなぐりへやさびぞくとても行とてこの
らんとあるどれた酒利とてんをびくいそぐあにあり遠ぐ〳〵受行る
よハぞくさまく〳〵罪のあるといふ牛まりおれみ拾をるとくさ庶
ゆてんぬ脱ゆ網ゆ〳〵との彩ひぞをこそぐんのんへうりとて。
あるこをんのゆ〳〵つうしぞをそうとゝ〳〵ぞ幸蔵
ぬ神水とのこるぞはをうゝ心府ゆ命ぐぞ〳〵ぞひとぐ
まりるぞ本の袋もちりぐてゆ。莉色と後ゝぞるさひくあり
ゆくあぞ〳〵。炉ちとりこそその一たゝ。色中とす稲き強田の色家。腰
りとて女も社会のかりひゆ家ゆく。蓋布ゆハ舟義一人。神格
きもいさこりるて。丹義酒のるゆんとつぞんぞだぶくとこの北りるり
うをうるゝゝと。系徳えるうゝがいるゝ神水のぐらといるぐり
ハぞんぞひうりハ公のるゆるゆぞをうりくゝと立さりしが。

生酒の鬱ひ舞と躰てこゆをぐるゝぞ。ゝ西又学問と生ゝ。ゝるり
らゝゆもるうたゝゝ。ゝりぞゆ酒ゆるひて世と世ともれりこゆ。るひ
たゆをるうゝ西ゝるぶびゝてゝでゝりて御をゆるをてゆりを賢人
もゆりぞをとゝ神ゝの罪がゆるをだんゆゝたるゆゝゝ又云ゝ
ゝゝけるゝ西ゝを人出ゝ水真ゝをゆ。ゝ西ゆゝなるゆ酒ゝをんゆれを。
をゝゆの母れゝをとよびのゆりゝ。ハゝゝくゝゝりてゝをゝゝはゝゝしゝべゝを。
ゝるびをゆゝをたてゝれるゆをバゼナゝゆゆまりて色ハ行事でゝりゆひ
るゝいゝをゝゝゝんを。枝てをゝゝし酒ゆゝてれゝりるゆゝ行を我人
ゆをゝんとゆりゝをゝぞのゆれゆ酒ゝをのゝゝて八を月をゝを柄ゆ。ゝゆ樂
酒ゝをゝてゝれゝゝ神水罪ゆゝれゝゝもんゆりゝゆゝゝゝゝをゝゝ百
つをゝゆりてゝびゝをゝをゝも酒のゝをまるる柄ゆをゝれゝをゝゝ色バ母れゝ
まゝゆをゝゝ。ゝをゝゝゝゝ

大明神の御子にぐしたまひて、しばしはこれにとどまりたまへ。
しかるに神奈川の神官、松尾殿のうれしがりたまひて、
てをりをりでござりまをせう。酒肴にてもりまをさうとハ、
をのをのこれまをせばいかもつまてゆりまをさうとハ、
とをるるものきの母親、おどろきたまひて、
まをせいとをこをる格子よりをくなもぐんぶりごらて二盃まで

第二　三人のむすこ母乃涙

同じ上方の香炉みはてこれをそ、ふるもの、
せうもをとをしかるものの。
にぶりて、舊くなる程價も黄くたとえられぐけてもつぐ
せてをそ、ぶるにしたがひ細ハ八里貨舗みさうはをてもぶ
ぶ後よりあがられをそ、家者の家にうるハ香炉に似うれ

親はあるとぶしかりをそ、ハ香炉みをそ、
人にさみをそ、れ世ハ侮らるる類氏もいりをぶらも入れ世のなり。
代々の家業ハ、今りにも先祖のあ、をそ、ぶ
ぶるを。ぶ、家商賣より。をそ、ぬ箱わをそ、ハ陸の賊とぶをぶる
年ぶをそ、ぶるをそ、ぶ、ぶ、ぶ

けうにて家がゝ世ごとに。四りく[illegible]の別代より[illegible]家日とよりて。
晒布問や角や孫右つ西ゝ店と出し。当ゝ八代より世ゝ
ゝて行ゝ及て自分より[illegible]ゝ六ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
てけ[illegible]ゝ[illegible]ゝ孫家[illegible]繁昌し[illegible]に無[illegible]ゝ[illegible]
十軒ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
坂ゝ商ひ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
して[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
てもいやゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝさゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝて[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

とけ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
坂ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ん[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
坂の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

面とある八寸の手じのとをんをあらをせ仕すさしあれをひもんに成
つくてたりをこそ。あぐくにくれてどかるをこ孫を命に天ゴハうを手をを
たゆをこ〜熱須ようを面をこれだ米たに都国とさだうをぷつはを面をへ
ちりぷあぐ拓とのかをきーてをくに若者とうをけ浦居も雪れて。
ちこ樂ともかをこ拓ふーこ〜ふ答ちをこで長のを中こ仕来ーてふ
山戦海城のうをひんのこかーぷ。やい嬢人酒代をーけこーこをもも
んをさをこ。答へも海へもれてかげ。又四舎の手ゐをこ押入塗城ぐ入ーこれ
拓ふでもかーぷんをこうこ。所人ゐあいこれの働こをの西
のに代皮西ようにかーこびもあぐう。面拓ちんハくなりと西の石をまでこ
あぐうを記行やどあこゐひるゐぐありてもこんをこんれてハけもこ
をこびもこるを業こ大切ふいこんを。こーつぐれて二番ゆをこれ
孫七おれるひるハうれこれどうをあぐちをこる。一切のこれこれ

あーぬりのありぷこぐて所人の教代とぐふるの万要日ありてもゆるはれぬ
ちーこひうをこぐさあ拓へもこれへもゆうぬこいふ所わこうれんぐをふこ
一りこけーてこうハ某ゐ。この某ゐもこれハ毋うぬ拓ゐて一年中の
ぬ代とんぐ面こうこひ別ーて七八月ゐをこだ教も拓ぐゐをここうぐ
ぬをぐーこ風の神こいのり。二百十日ゐをこうあうをゆうここんをこバ。
系ものぐ面こーぐ教生こ五校もさハぐぬ本こうこみをこわこ大ていの
年ゐーてあ仕ゐ中小あーぐ答こハ面ぐ拓れ拓こまゐりぐこしあこ
ゐひをーこゐこ。拓ここ面ーこここいふゐハまり商人ふハ面れこう
ひ。これーこ答ゐをこ答ここの拓ぐあこいふ拓者行のむこうこも
ぬーこれこ答んゐあんこハ拓りひれもうーこ代こーこいをぬ新こ答ゐれ
孫を石こうぐしくをこーこらぐの拓ゐゐーて大拓こをーこをはぐ
こ拓でもゆ。百万面の面ゐ手かくゐあをバ行ぐその

時そこなまよの孫右ゑ門情ぐるひ[illegible]大金と
ぬしゆへ[illegible]とつまと進出されてえづと
にぐるこつふぐんみ[illegible]ハ行つぐてもかきりけるの[illegible]の者
とめもんのわれかりおくひうたてるんもあるぐ[illegible]
一人なる者ふ[illegible]ものんとつとまふけ家もらん
狂ぐりみるぐるひとるとありてハぐのはんぐんぬけぐと
て世とへるりめけるあとなて親兄と大切ものてのの新所ぐうひ
地幸金うとそ水の飯金とる指ないひぐん母も狂のんぐこぬるそ
う西養ぐんねでハるこせんわ[illegible]たまるはぐこ者ものと浅ぐて生と
そ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ん

第三　思ひ[illegible]んハまのり合私

[illegible]ハうやうひ地ハいやら[illegible]ものるまぐ。後方天の悪しのあ[illegible]ぐ
ゆへ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

しの大坂ぞうり二男孫七ゑ拾もれあくびそびそバ
和さまくゞ鉄炮町ゝりのみとゝぞうどしゆ屋ゝ者に引うけ乃
お伝ゝゝやぐさい出ゝゝれて御ゝ三ゝ五ゝ名ゝ者ゝ
くゝとゝゝやゝゝゝゝ二男孫ゑ兵ゑ人ゝ
ゝて者ゝとゝ御ゝゝゝゝゝ八男のゝくゝゝゝ百ゝゝゝゝゝて
さゝ者ゝゝゝゝゝ

てその前くあてゆあくせぶんのりと嚙くるつて法教りとてよ
み思ひよりに京ぶらこれ年教へ出入とる仲仕れ八重ゐが出ておくろ反
教ろんりとうりぞくりあてうりくへはきりぞ問ゆ反て咲て海
きこと作ずれくへ寄りまりたぬ一部もあく立海りたれくろ反
にに安堵させるせくといひとて海の反孫を帝ぶ歩第ひる時りど
きのひ孫を帝ぶ付て来回にぞくぬ残とられて八重とつきれさ
さんがハ女像といふ問ゆを教ぶ出まするとはきくせぞのり今の内一枚
変とはきくせ教れ通てんぞせんあるさごまりたのきバいせ寄りのドが
もいりご二京あり入大坂の反俵所うくう業のうけの法くとれに出とし
ゆ代とハ腰ゆさげる帳ゆてうんん大坂の教りとんゆぶりれるる教
よりあごゆぶくをやきもりれあぶらぞのりこて渡の
大橋もとぶるくめぐる水車より年月ゆあく立て海を義ゆ大坂へ

来るもとくやうやどにあるといふハおれくと暮ゆれ夢ゆ海とん
出ぶ教くりりとは嬉ゆて指打の所人教をも嬉あるるひゆぶ出。
留きに大坂の彩所へうりひとゆ安様のかりくろにひつきぶんのね
けんハるの耳に閉のふくゆ日も雨のふる教もぶせくまつせれせすい
肩。天海の海やと賞ゆくとひぶけ出くさ日より左ハゆくや渡り
さらぶひ世るよりたるけとよんぶれぶ教のうり門ゆをれらる。教
んの色地もこのまぶりハてこ命ぶ今のひ刃門こへうこひとうこひつ
こ第一文でゆさくでも山科ゆ伊田ゆるゆぶせて法ゆ様月の五んに出
さくにぶくひてハくくゆるゆとて色ぶ孫ゆあぶれ教せ行とぶ
色ゆて刃とこせぶ。思ひのゆ行ゆ百月。京くとりくぶぶこハ中
くての海ゆる。指ゆ色ゆてとりゆ出ゆあひぶ方より用こをくるゆ六
十文の孫すぶくれぶくれのらたとりて教ゆのりうりぶをこと

も紀の国とぬき無益の金を費しける天罰とうれしがりたる人々
是をとりげ出し一つづゝ出てゆくに大の男をねとり出すまして
あるべやまの中に無度のたんぜんの千鰯同様なるものを関屋一学
と申さるゝのよしあまたさげひ流の奥ぶくろ
の関屋あてもの腰と云てはうてこうせんぶくろ
らんぜんとげ出をたてそ〳〵ひまつてつくさんかの〳〵と自慢のさいちう
紀もおたてそ無益なるものさうにおけもばらるべるべるけいこ所人
の武芸伝禁制として伝をそれとそ〳〵ものもらの乃
指南方と決申にはまつ〳〵おうれを学ぶれ抜業にて一月とおそう
なる事六十七八なる白髪おやぢなる小男あてよハ〳〵とせ〳〵ぶみぢ
うれ大小にを換じなる紙をじあり申てつえとはさようろ〳〵と西の
のをあて出あひとれ〳〵ハ二人とすれ大とれず細々あてしかようを

けしいへばかのあやしがりすあるこにかゝらぬう浪人のをを武士にさい
面ぶとものといとれてハ〳〵ね家ふり義ぶりだぐ一はまるこをり
じめにえてうれどがのれやちぢでんぐをるみとけてよるぶ拍にあさ
るうとハれもハぶりしがはるうより骨いこうこうたれはにのりが
うく所是にのをんのでさられぬなが科にんとれバ是れつぶひ新か
らをて療法をうことれなりう方これ湯に入うり大坂難波の接骨
へかりうりさぶぐれ申にをも効ありぐ是に食物さんなり。
もれなりまふれをれやぢにをげ〳〵も腰うねけ〳〵とのはをろ
く寸まにうり人も出ろんとあ〳〵ぶ〳〵て大をむうりこにぶ〳〵の
今の剣の人天涯の答ろうとゆかなびぶろ〳〵といざりてゆきされ
をこんぶるけをバかのさうりこぶまてれをを人のかをるさ。赤
金のお扇さ取を是無ハ一文でトされませいとうぶぐう伝れ方に

頭ゝうりせ〜ゝ十ばりの男ゝれひとりめうれ男と思ひしにせいハ
似るものあるものゝ〜ハ神祐ちうれ合満といふ主人のえ
代〜家業田畑美く二十三人ゝ〜ゝ〜百姓ゝと大坂の米市にゆく
つゝ年ゝうりハ先〜元しゝ賞〜ゝ〜ゝ〜ゝ田畑ゝ入て
とゝ横ゝとゝ〜ゝとる程ゝ〜ゝ家もうり蔵もうり蔵も二人ゝ命ゝ出し。
ゝその程ゝうりてゝ〜ゝ〜ゝ〜ハゝ〜ゝ〜ゝ〜

秋齋桂先生著

菊嶺子　　全部四冊

古書造化人功変天俗法を論じ古書に代て新説を
詳し百家の書讀み法て孫子の書を論ずる書や
右家先生著述の中求め出て梓に上せ

寶暦十二年壬午二月求板

江戸大傳馬町三町目
鱗形屋孫兵衛

京寺町通五条上ル町
梅村　三郎兵衛板